

さくらだより [1号]

2010年9月17日発行

厳しい残暑が続いていますが、皆様体調管理は大丈夫でしょうか。暑い夏の後、9月から10月にかけてホルモンのバランスを崩すことがよくあります。生理不順になったり、不正出血があったりと人により症状は様々ですが、女性のストレスや疲労の蓄積が思われるホルモンの乱れを生じ、症状に現れるので“ちょっとおかしいな？”と思ったら御相談下さい。さて、今月から **さくらだより** を発行することにしました。今月のテーマは“**女性管理職**”です。男女雇用社会均等法が施行されてから四半世紀近くなりますが日本の女性活用は先進国の中で際立って低いといわれています。2008年米国が42.7% ドイツが37.8% 英国が34.6% スウェーデンが32.2% 日本は2009年ですが10.2%といったところです。ジェンダー・ギャップ指数は134ヶ国中101で男女の差の大きさが先進国とは思えない数字とか……。女性の活用が企業業績に好影響を与えるといわれているのに何故？特に大企業では管理職が著しく低いという現実が納得できません。一方、女性側にも問題があることも。将来を嘱望していた女性が結婚、出産であっさり辞めたり、管理職を勧めてもいやがるという声も聞きます。女性の意識改革も必要でしょう。少子高齢化社会の中で女性がすることをしなければならないが多すぎます。家事・育児・子供の教育等、その上まだ責任をもつ仕事につけというの？といわれそうですね。でも“やってやろうではないでしょうか！”“やればできる”です。第一にして多分一番難しい関門は天の理解と子育てする場合の育児支援ですね。結婚している方の場合は近くに親御さんが住んでいる場合は何とか協力していただけても、誰もいない場合は途方にくれるでしょう。公的な保育所のみではまかなえない育児支援制度を各企業が考えなければなりません。日本社会も除々に変わり、先進的な企業ではさまざまな取り組みがあります。まだ手探り状態です。経済状況の厳しさの中、そんな余裕はないといわれそうですが、有能な人材を排除している企業は先がないような気がします。

